



2021年8月23日

アウディ ジャパン株式会社  
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106  
アウディ コミュニケーションセンター

## 2021 SUPER GT 第3戦、2台の Audi R8 LMS が完走

- Audi Team Hitotsuyama は、予選8位ながらもマシントラブルに見舞われ最終結果は21位に
- Team LeMans with MOTOYAMA Racing は、予選12位、決勝12位と今季ベストリザルト

アウディ ジャパン株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役:アダム パスタナック)は、Audi R8 LMS で2021年シーズンのSUPER GT GT300クラスに参戦するカスタマー(プライベート)チームをサポートしています。8月21(土)、22日(日)、鈴鹿サーキット(三重県1周5,807m)で2021 SUPER GT 第3戦となる「SUZUKA GT 300km RACE」が開催されました。

本来は5月末に開催予定だった第3戦鈴鹿大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって延期されており、第4戦に次いで行われるイレギュラーなスケジュールとなりました。予選、決勝ともに曇天で、時おり青空も見られるなか、感染拡大防止策をとりながら観客を迎え入れて開催され、予選と決勝の2日間で約1万8500人の観客が訪れました。

アウディ ジャパンとパートナーシップ契約を締結している Hitotsuyama racing は、Audi Team Hitotsuyama (アウディ チーム ヒトツヤマ)として、SUPER GT GT300クラスに参戦。Aドライバーは、川端 伸太郎選手、そしてBドライバーには篠原 拓朗選手を起用。マシンのカラーリングは赤を基調にベージュを組み合わせたツートーンカラーで、ヨコハマタイヤを装着しています。

また、今シーズンはGT500やスーパーフォーミュラで活躍してきたチームルマンと本山 哲氏とのジョイントプロジェクト Team LeMans with MOTOYAMA Racing が、Audi R8 LMSによりGT300クラスに参戦。Aドライバーは本山 哲選手自身が務め、Bドライバーに片山 義章選手を起用。マシンのカラーリングは鮮やかなブルーを基調として、同じくヨコハマタイヤを装着しています。

土曜日の予選は、気温27℃、路面はドライコンディションでスタート。参加車両が29台と多いGT300クラスの予選は、A組、B組の2つに分かれてQ1を行い、各グループ上位8台がQ2へと進出するノックダウン方式を採用しています。今大会では、#21 Audi Team Hitotsuyama、#6 Team LeMans with MOTOYAMA RacingともにB組に振り分けられ、#21は川端選手が、#6は本山選手がQ1を担当。#21が7位、#6は8位に滑り込み、両チーム共に見事にQ1を突破。#6 Team LeMans with MOTOYAMA Racingにとっては今シーズン初のQ1突破となりました。Q2では、#21は篠原選手が、#6は片山選手がそれぞれアタックを担当。最終的に#21 Audi Team Hitotsuyamaが8位、#6 Team LeMans with MOTOYAMA Racingが12位、決勝で上位入賞を狙える好位置を獲得しました。

日曜日午後2時40分、曇天、気温30℃のコンディションのもと決勝レースがスタート。#21 Audi Team Hitotsuyamaのスタートドライバーは、川端選手がつとめました。レース序盤からセーフティカーが入る荒れた展開のなか、その後はエンジントラブルに見舞われ思うようにタイムがのびず順位を落としてしまいました。我慢の展開で予定周回を走りきり篠原選手へとドライバー交替。篠原選手のステイントでは、少しペースアップがみられたものの大きく順位を挽回するには至らず21位でゴール。

一方、#6 Team LeMans with MOTOYAMA Racingは片山選手がスタートドライバーを担当。安定したラップを重ね、中盤にかけてポジションをあげながら26周を終えたところで本山選手にバトンタッチ。ピット作業で一度は20位まで落ちたポジションを気迫の走りで見事に挽回し、今季最高の12位となりました。

#### #21 Audi Team Hitotsuyama チーム代表 一ツ山 亮次氏のコメント

「土曜日、午前中の練習走行の段階でドライバーからマシンは乗りやすいレベルに仕上がっているというコメントも出ていましたし、今回は Q1 は通過できるだろうと思っていました。川端選手がしっかり Q1 をクリアしてくれて、Q2 の篠原選手も自身のベストタイムで、いい予選ができたと思います。決勝は上位入賞が狙えると想定していたのですが、川端選手からエンジンのパワーが落ちる症状がでると無線があり、その後は厳しい展開になってしまいました。次までに原因を解明、課題を解決して対処したいと思います。今シーズンはポイントの取れないとても苦しいレースが続いていますが、もう一度チーム一丸となって、次戦の菅生にのぞみたいと思います」

#### #21 Audi Team Hitotsuyama 川端 伸太郎選手のコメント

「Q1 は絶対にとりたいという強い気持ちで挑んだ予選でした。クルマのセットアップも決まっていたし、これまでの努力が実を結んで Q2 につなぐことができました。決勝はタイヤをセーブしながら前を走る集団についていく展開をイメージしていたのですが、急にエンジンのパワーダウンを感じて、コーナーで頑張っても後続を抑えても、直線であっさり抜かれる悔しいレースになってしまいました。菅生と Audi R8 の相性は悪くないと思うので、次はしっかりとリベンジしたいと思います」

#### #21 Audi Team Hitotsuyama 篠原 拓朗選手のコメント

「初めて GT3 マシンで鈴鹿を走ることもあって、練習走行では思うようなタイムが出せなかったのですが、結果的には予選 Q2 で自己ベストを出すことができました。このサーキットはとても抜きにくいこともあって、無理をしてバトルをしてしまうとタイムがのびず、決勝は反省点の多い展開になってしまいました。いまいちど気持ちを引き締めて次のレースに臨みたいと思います」

#### #6 Team LeMans with MOTOYAMA Racing 本山 哲選手のコメント

「新規チームとして挑んだ 4 戦目で、いろんなものごとへの理解が進んだなかで、クルマのパフォーマンスをあげることができ、ようやくタイムと順位につながってきたという印象です。チームとしては初めて Q1 を突破できたことも非常によかった。決勝も現状ではベストな力を出せたんじゃないかという手応えのあるレースでした。ただしトップ 10、トップ 6 を見たときには、まだまだ足りない部分があるのも現実で、次のステップに向かうためにどうするべきか、さらに一歩ずつ課題をクリアにして、レースに臨んでいこうと思います」

#### #6 Team LeMans with MOTOYAMA Racing 片山 義章選手のコメント

「初めての Q2 で緊張しました。これまで一人で走るレースが多くて、チームのため、チームメイトのためというプレッシャーのなかで、個人的にはもう少しつめられる感触はありましたが、現時点でのベストを出すことができました。決勝ではもっと上位を狙いたかったのですが、鈴鹿というとても抜きにくいコースの特徴や、現状のマシンの仕上がりとして、予選、決勝ともにベストリザルトを出すことが出来てよかったです。チームとしてのまとまりもよくなっていますし、今後はさらにマシンを煮つめて、もっと上のポジションを目指すことができるよう、自分にもチームにも期待しています」

アウディ ジャパンは 2016 年来、Audi Sport customer racing パーツトレーラーを全国のサーキットに配備してレースに参戦するカスタマーチームをサポートしています。今年も専用のトレーラーにボディ、トランスミッション、エンジン等、レース車検に適合した約 3,100 アイテム、約 11,100 点の部品を積載し、いかなるレース展開にも対応できるように体制を整えて、SUPER GT、スーパー耐久、および TCR ジャパンに参戦するチームと共にサーキットを転戦します。

次戦、SUPER GT 第 5 戦は、9 月 11 日 (土) ~12 日 (日)、スポーツランド SUGO にて開催予定です。